

「つながりの森」構想案に対する市民意見募集の実施結果について

横浜市では、「つながりの森」構想の策定に当たって、平成 24 年 5 月 21 日に素案を公表し、市民意見募集を実施しました。市民の皆様からの、貴重なご意見・ご提案に感謝いたします。

このたび、実施結果と本市の考え方をまとめましたので、公表します。

1 実施概要

意見募集期間	平成 24 年 5 月 21 日（月）から 6 月 15 日（金）まで
意見提出方法	郵送、電子メール、ファクシミリ、簡易申請システム
案の公表場所	市民情報センター、区役所広報相談係、環境創造局政策課及びホームページで閲覧

2 実施結果

提出者数	17 名
提出方法	電子メール 10 名、ファクシミリ 5 名、簡易申請システム 2 名
意見数	95 件

3 意見の分類と反映状況

① 構想に反映したもの	13 件
② 趣旨が既に構想に反映されているもの	19 件
③ 構想推進の上で参考とするもの	40 件
④ 構想に反映することが困難なもの	12 件
⑤ 感想・質問	11 件

※詳細は別紙のとおり

[お問い合わせ]
横浜市環境創造局政策課
TEL:045-671-2484
e-mail:ks-tayou@city.yokohama.jp

①構想に反映したもの		
NO.	意見概要	回答
1	P3(3)構想の位置づけ・役割について 本構想における取組は「新たな規制等を行うものでなく、、、」という部分は、この構想を事業化するにあたっての実効性への懸念を与えるものです。生物多様性に関する施策や規制は、それぞれのフィールド(生きものの生育、生息する環境)ごとに個別の課題となって現れてくるものです。この構想のように一定の場所を対象とした事業であれば、それを念頭に計画を進めるために必要な施策や規制を、上位あるいは関係する施策に速やかに反映しなければ現場での事業や活動に支障が生じます。逆に、現場の実態を踏まえて、全市的な政策にしてい「実証の場」であるという位置づけも明記してこそモデル事業、モデル地区と言えるのではないのでしょうか。	ご意見を参考に、表現を修正しました。
2	P12 横浜自然観察の森について 「自然観察を専門とするレンジャー」というのは自然観察センターの機能やレンジャーの役割が限定的であるかのような誤解を与えます。みどりアップの事業として拡充した直後でもあり、後段に記載されたように、「環境調査、環境管理、環境教育、ボランティア育成」などの機能を果たしており、その一環として来園者へのサービスを提供しているという記載をすべきです。	ご意見を参考に、表現を修正しました。
3	P19 ア水と緑を守る・育てるについて 横浜市の環境政策においては「水と緑の基本計画」という上位計画のもとに、ヨコハマbプランもつながりの森も位置づけられていると理解しています。生物多様性の保全においては特に湿地や水辺の保全が重要ですが、「市民の森制度などにより保全されている「緑地」において、生物多様性を保全し」と表記されているのは制度上の名称のように見えます。横浜の原風景そして現在残っている貴重な場所には谷戸が多いことから、つながりの森では単に緑地ではなく「緑地や水辺」「樹林地や水辺」と記載すべきと考えます。	ご意見を参考に、水辺を追記しました。
4	P20 表3-1 緑地等の保全のための主な制度について 生物多様性保全の前提となる樹林地や水辺の保全には、なんと言っても「地権者(地主さん)の理解と協力」が必要です。表にもそのような表現が書きこまれてはいますが、生物多様性の保全にかかわる市民には是非知っていただきたいことであり、コラムのような形でよいので、強調してはどうでしょうか。みどりアップの中での保全の指定が、みどり税(に触れるかどうかは別に)導入前後で5倍にもなっていることなど、みどりアップとbプランの連携も示せます。	ご意見を参考に、コラムを作成しました。
5	P24 カ外来生物の対策について Aの普及啓発にあたっては、単なるイベントだけではなく、対策を打つべき指針や基準を早急に設定して実際に現場での作業を通じた啓発を行うことが必要です。私たちは、市民の森を中心に毎年セイタカアワダチソウの駆除を続けてきました。これにより、秋の谷戸の色は大きく変わり、本来の谷戸の景観が戻りつつあります。しかしながら、作業中にも市民の方々から「市民の森で植物を抜いている」「ほっとけばいずれ弱ってなくなる」「冬鳥が食べるエサが減る」など、保全作業にかかわる人たちへのネガティブな言葉による妨害すらあるのが実態です。既に「認知度、理解度の把握」などという悠長な状況ではないことを理解し、表現を見直してください。	ご意見を参考に、表現を修正しました。またイベントの内容についても、今後の取組の中で、ご意見を参考にさせていただきます。
6	P25「つながりの森」におけるエコロジカルネットワークの形成について 図3-2の下に「円海山」を中心とするコア区域」とありますが、円海山は特定の山あるいは場所を指します。今回の構想においては広がりを持った区域を表す「円海山緑地」という表記に統一してください。	ご意見を参考に、「円海山周辺」に統一しました。

NO.	意見概要	回答
7	P27 ア体験フィールドの活性化について Bの短期の説明の「自然観察の森や上郷・森の家での自然体験や音楽などのイベントを実施」という表記では森の生きものに音害を与える印象です。「自然観察の森での自然観察や上郷・森の家での自然環境に配慮した芸術イベントを実施」のような内容に見直してください。自然の中の野外での音楽は、安易に「楽しむ」という言葉を使う懸念とも重なります。	ご意見を参考に、音楽を削除しました。
8	P28 図3-4 拠点施設の連携イメージ(将来像)について この図の大きな課題として、市の既存施設の役割のみを強調しているため、円海山緑地の生物多様性を支える実働部隊である多くの市民活動との関係が抽象的で曖昧です。「緑地・公園」でなく「〇〇市民の森」「樹林地」「水辺」という活動や親しむイメージがわかる表現をお願いします。 また、施設における各種の事業は、市民の森をはじめとする広大な森における生物多様性保全につながることを目的としているはずで、実習や、実証の場としての保全活動の現場を図の中に明記すべきと考えます。	ご意見を参考に、市民の森を記載しました。また、保全活動の現場としては、市民の森や公園、川や池、学校、などを例として記しています。
9	P29(イ) 横浜自然観察の森について ②に関して自然観察の森の持ち味は、環境調査や環境教育(啓発)にこそあります。森づくり活動という言葉は、環境管理作業中心のイメージがありますので、環境保全活動(調査、分析、研究)全体の入り口であることを明記してください。	ご意見を参考に、表現を修正しました。
10	P31「つながりの森」エコツーリズムについて ・歴史文化遺産 自然と歴史や文化のかかわりを意識して理解しようとするアプローチは評価できますが、ここに記載のものは、ややイベント系に偏っているように思います。 例えば瀬上沢の周辺で言えば、砂鉄の多い地質、風の通り易い地形、渡来人による製鉄の開始、熱源としての薪炭林といったつながりがあります。地学上日本の地層の基準となる火山灰層、化学合成群集の貝化石など、フィールドで目に来る歴史文化遺産への言及も必要ではないでしょうか。	ご意見を参考に、地質、化石を追記しました。
11	P32 ウ「エコ森プロジェクト」(金沢動物園再生基本計画)の推進記載の順番を見直してください。 まず、生物多様性の保全を目的とした趣旨から、C. の「保全・保全事業」を最初に移してA. として、金沢動物園の存在価値を明示してください。 次にその手段としての、施設整備と環境教育・環境学習が続くのではないのでしょうか。	ご意見を参考に、A～Cの順番を修正しました。
12	P32 ウ「エコ森プロジェクト」(金沢動物園再生基本計画) 言葉の問題ですが、ショーケースとは何を意味するのでしょうか。わかりにくい言葉を羅列して内容がぼやけすぎています。	ご意見を参考に、表現を修正しました。
13	その他、表記や文章表現等についての意見	ご意見を参考に、一部修正しました。
②趣旨が既に構想に反映されているもの		
NO.	意見概要	回答
14	海の部分の内容が欠けているのではないかと。	海の取組については、2(3)主な関連計画・事業⑨つながりの海において、連携を取りながら進めます。
15	市民の森として保全し、一体的な森林となるよう、もっと森林所有者に行政が働きかけることも大切だと思います。	基本方針1 アA樹林地・農地の保全の中で取組を推進します。

NO.	意見概要	回答
16	瀬上池を市民の森に指定するなどして、溜まった土砂の浚渫も計画される模様である。かつて多大な費用をかけ樹林地の保全のあり方についてゾーニングなるものを構築したが、各所で風雨により樹木が倒れたり、崖崩れが発生したりして表土の流出が止まっていない。実際的な保全策が望まれる。	基本方針1 イ瀬上池の生物多様性を守るの取組の中で取組を推進します。
17	P19 ア水と緑を守る・育てるについて「生きものの生息・生育環境を保全・創出するための川づくりを推進します」とありますが、これも川だけでなく「生きものの、、、創出するための「水辺づくり」あるいは「川や池や湿地づくり」を推進、、、」とすべきです。	水辺の創出については、基本方針1ウ B水と緑の連続した環境づくりに記載しています。
18	「つながりの森」エリアを、円海山周辺を中心とし大きな範囲を対象とするのは素晴らしいことです。それだけに、「公共施設や住宅の庭など、身近な緑化を推進する～」の緑化という言葉の意味と目的を明確に具体的に説明し理解してもらうことが、大切だと考えます。P25にはしっかりと「住宅地の緑にも、様々な生き物が生息し、生き物に親しむことができるように～」と書かれていてとてもよいとおもいますが、効果を上げるために具体例を出し、明確にすることにより取り組みの重要さ真剣さが伝わり、市民の意識が変わっていくのではないかと思います。エコジカルネットワーク形成のための公共施設、住宅地で行われる取り組みは重要なものとして位置づけていただきたいです。	基本方針1 ウ水と緑をつくる・つなげるの説明において、身近な緑化の意味と目的を示しています。また、その具体的な取組として、A身近な緑化の推進など、公共施設や住宅における取組を位置づけています。
19	P9 表2-1に表記されているデータの時期(13年前)と言い、把握している内容と言い、つながりの森の区域全体における行政のデータの蓄積は、保全の事業や活動を行う基礎資料として十分ではありません。せっかく信頼性を持った市民や研究者のデータがあるにもかかわらず、それが活用できていない仕組みを、本構想の前提として見直すべきと考えます。	基本方針1 オ動植物の調査と生き物データベースの取組の中で、市民協働による調査について検討します。
20	市民が地域の自然情報(動物の出現、草花の開花)を発信して記録できるものを構築して欲しい。	基本方針1 オB市民協働による調査の推進において、検討します。
21	「つながりの森」を小学生の環境教育に積極的に使うべきでしょう。教育プログラムを構築してみてもは。	基本方針2 ア体験フィールドの活性化の上郷・森の家の特色と役割として小学校の宿泊体験施設を位置づけています。また、ウ「エコ森プロジェクト」の推進において、環境教育・環境学習プログラムの開発を行います。
22	P28 図3-4 拠点施設の連携イメージ(将来像)について拠点(施設)間連携については、当会ではこれまでも重ねて提案をしてきたところですが、この図では表現が曖昧で、かつbプランの趣旨である生物多様性の保全という自然や環境の「生産」よりも、楽しむ、憩うという自然や環境の「消費」のイメージが強い内容になっています。まず、それぞれの施設の特徴を「感じる」とか「楽しむ」とか感覚的に表現をするだけでは、具体的に何を役割にしているのかわかりません。役割や分担をわかり易く定義してください。	具体的な役割については、P28図3-4連携イメージ図下の【各施設の特色と役割】に記載しています。
23	P32 ウ「エコ森プロジェクト」(金沢動物園再生基本計画)言葉の問題ですが「環境教育と環境学習プログラムの開発」とあります。やるべきことは「プログラム開発」でしょうか。あるいはプログラムの実施による「環境あるいは生態系保全意識の向上や行動への動機づけ」でしょうか。また、環境教育の施設として横浜自然観察の森との役割分担はどうするのでしょうか。	環境教育の施設としての機能分担については、基本方針2 ア体験フィールドの活性化において記載しています。

NO.	意見概要	回答
24	<p>P33 人材の育成について</p> <p>私は、自然体験プログラムのための人材育成として、自然観察の森の「自然案内人講座」の企画と運営を10年以上続けています。その経験や現場の環境保全活動から、しっかりした理念や知識に裏付けられた実践的な環境教育(啓発)の指導者やリーダーの育成は、樹林地管理などの作業中心の人材育成に比べて何倍も難しいことを実感しています。ここでは触れられていませんが、環境調査とそれを担う人材育成も重要かつ困難で、育成には、優れた指導者と本人の努力と時間が必要です。そのため、環境調査と環境教育(啓発)の市民ボランティアは大変少ないのです。</p> <p>この意味で、人材育成については、環境調査や環境教育(啓発)の人材を、同じボランティアという括りで環境管理作業と同列に考えることはできません。さらに多くの育成資源の投入が必要です。その違いと重要性がわかるような表記をして、必ず環境調査の人材育成も対象に含めてください。</p> <p>また、新たな育成だけでなく、ボランティアのレベル向上も必要です。樹林地の管理作業においても、マニュアルはあってもその生態学的な意味を理解できているかどうか、あるいは、植物の種がわかるかどうかで、保全を意識するようになり、草刈りの仕方がずいぶんと異なってきます。</p>	<p>森を支える人材の育成、環境教育・環境学習プログラムのガイドや指導者となる人材の育成、という表現で区別しています。</p>
25	<p>拠点施設と活動団体のつながりの形成や、各活動団体の情報の収集・発信をどこがどのように行うのですか。</p>	<p>基本方針2 オ「つながりの森」の調整機能の充実・体制の強化に記載のとおり、情報の集約・共有及びポータルサイトによる情報の提供を行います。取組の担当部署については、検討します。</p>
26	<p>関係HPをつくる。</p>	<p>基本方針2 オ「つながりの森」の調整機能の充実・体制の強化の取組において、ポータルサイトによる情報の提供を行います。</p>
27	<p>企画や実行にはいつも利用している地元の人を加えて、意見を聞いてみてはどうですか。</p>	<p>「つながりの森」構想の策定に引き続き、取組においても、市民の皆様のご意見をいただきながら推進します。</p>
28	<p>「瀬上池」をつながりの森における象徴的な位置付けとするとあります。象徴的な位置付けにすることは良いですが、環境特性、生物多様性から考えると重要なコア区域となってくるのは「谷戸」であり、構成要素である「湿地」「水田」です。</p> <p>しかし、この構想案に「谷戸・湿地・水田」と書かれたところは、谷戸の説明をしているところ一か所しかありません。「つながりの森」を保全再生していくにあたって、最重要と言ってもおかしくはない「湿地」「水田」はコアエリアであり、重要性を記す必要があると思います。</p>	<p>湿地、水田については、「水辺」と記載しています。</p>
29	<p>「つながりの森」構想は、上郷開発にゆれる当地住民にとっては期待の持てる構想です。円海山につながると言うよりは一体の緑地として、森林の他にも川あり、池あり、田畑(復元可能)あり、特に今回の開発予定地は湧水あり、湿地ありとしてヨコハマプランにとっても大変貴重な所です。又いたち川につながり、本郷ふじ山から鍛冶ヶ谷へとつながる森だという事でも壊してはならない所です。保全に対する主体的な参加などは望めません。何としてもこの貴重なみどりを先ず守ってください。</p>	<p>「つながりの森」の目標や基本方針に沿って取組を推進します。</p>
30	<p>自然が多い栄区の山々が開発によってなくなっていくことは、大変さみしいことですし、子供達の世代には残すべきと考えます。</p> <p>東急建設の開発範囲は縮小されたとはいえ、貴重な生物の宝庫。ぜひつながりを持って残していただきたい。あの一体には大規模開発は必要ありません。</p>	<p>「つながりの森」の目標や基本方針に沿って取組を推進します。</p>

NO.	意見概要	回答
31	「つながりの森」の中心からやや西側に寄った33ha にも及ぶ広大な面積で東急建設による上郷猿田開発計画が進んでいる。この6月には「都市計画提案」を市に提出すると述べている。市はみどり税を市民から徴収し3年が経過している。この税の本来の目的は必要な緑地の買い上げに有った筈である。「つながりの森」の中心に近い部分での都市開発の計画予定地は「みどり税」を使って全て買い上げるべきと思う。東急建設による開発を許すような事があると市の緑政は崩壊する。	「つながりの森」の目標や基本方針に沿って取組を推進します。
32	最も重要なことは現在の自然環境をいかに保全して、将来へ繋げていくにかかっています。 横浜市は「ありのままの自然」が残るように最大限の努力をして、出来る限り手を加えないで欲しい。	「つながりの森」の目標や基本方針に沿って取組を推進します。

③構想推進の上で参考とするもの

NO.	意見概要	回答
33	P17(1)基本方針について 豊かな自然が子どもたちにとって重要ということは理解できますが、重要な視点が抜けています。 それは生きものと触れ合う大切さやつながりを体験的に学ぶためには、必ずしも豊かな自然が必要ということではありません。市街地の中の団地であっても、そこに珍しい生きものや人気のある生きものがいなくても、子どもたちはそこにくらす生きものに親しみ、学び、守る意識も育てることができます。生物多様性地域戦略という観点から環境意識を高めるには、市街地の中や、あるいは生活の場での活動にもっと目を向けるべきです。それによって、自然豊かな場所に出かける機会をもった時、子どもたちはその大切さを更に深く理解することになります。 地域(関連区域)と円海山緑地のような場所(コア区域)を相互補完的につなぐことで、つながりの森の構想に効果的な環境教育、実効性のある生物多様性保全がはかれます。学校教育とあわせて、こどもエコクラブや子ども会のような街の自主的な活動をもっと事業の中に織り込み、指導者の育成を含め支援すべきです。	基本方針2 イ「つながりの森」エコツーリズムの推進や、エ人材の育成などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
34	P18(2)具体的な取組について 「動植物の調査と生きものデータバンク」は、その目的と内容をよく定義することが大切です。 これまで横浜市が行ってきた市民協働生きもの調査のような事業は、環境意識を高める啓発の観点からは一定の意味があったと思いますが、生物多様性の保全やその前提としての順応的な管理の裏付け調査とは違っていたと思います。横浜市では、このような啓発的あるいは行事的な調査と、行政が直接行う数年おきという目の粗い調査はありましたが、各フィールドごとの順応的な管理にもつながる市民による実効な調査については施策の目からこぼれていました。 「動植物の調査と生きものデータバンク」では表現があまりに漠としています。啓発が目的か、行政用データの収集が目的か、あるいは実効性ある生物多様性につながる保全データのためか、それをよく考慮して、調査の方法、粒度、活用の仕組みを考えるべきです。何にでも使える調査というのは実際にはあり得ないと思われます。	基本方針1 オB市民協働による調査の推進において、調査方法を検討する際に、ご意見を参考にさせていただきます。

NO.	意見概要	回答
35	<p>P23 才動植物の調査と生きものデータバンクについて 調査の重要性に触れている点は評価しますが、あまりに漠然としており、この表記では実効性ある保全につながるかどうか定かではありません。 「調査結果はデータバンクとして様々な施策に活用します」あるいは「B. 市民協働の調査の推進」とあります。 しかし具体的に、以下の課題を明確にしないと施策には結びつきません。 ・調査の目的は、啓発か学術か順応的な保全管理か ・その調査を誰が行うのか ・調査の基準や方法の統一はどこでどのように行うのか ・データはどこでどのように管理するのか ・利用はどのように行われるのか ・希少種のデータなどの管理規則はどうするのか これらを明らかにしたうえで、目的にあった調査を行う必要があります。そのため、市の管理地における調査主体の登録や調査データ提供の義務付けを行い、市内の各地で進んでいる市民による環境省のモニタリング1000里地調査との連携や、学術目的でデータを囲い込みがちな研究者との協定など、具体的で実効性ある仕組みを作るという姿勢も書きこむべきです。 そして調査データを活かした生物多様性の保全にとってもっとも重要な作業は、横浜の自然環境にあったレッドデータリストを整備することです。これによって保護すべき種や、保護の優先度が明らかになり現場の具体的な保全活動につながります。</p>	<p>基本方針1 才動植物の調査と生きものデータバンクなどの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
36	<p>P24 外来生物の対策について Bの外来生物の対策については、被害に応じた対策というモグラたたきでなく、戦略的に地域ごとの集中的な対策が必要です。台湾リスやアライグマを例にとれば、コア区域と住宅地などの周辺区域では対策の方法も違います。ある程度広域に、集中的に、繰り返し、という形で、駆除する範囲や被害抑制の目標を決めて実施することを明記ください。</p>	<p>基本方針2 外来生物の対策などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
37	<p>P25 「つながりの森」におけるエコロジカルネットワークの形成について コリドーの形成については評価できますが、緑を点在させつなぐだけではなく、あるいは100mという物理的な距離が先に来るのではなく、どのような種を対象とするのか、目標種の生息環境や移動能力などを考慮した計画であるべきです。野鳥とトンボとチョウではそれぞれ必要な環境も移動距離も異なります。また、考慮すべきはコリドーがクリハラリス(台湾リス)のような外来種の拡散ルートにもなり得るという点です。これに対する対策も同時に図るべきと考えます。 これについても大規模な市街緑地をもつ団地の管理組合や自治会との協力は不可欠です。</p>	<p>基本方針1 ウ水と緑をつくる・つなげる、外来生物の対策などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
38	<p>P28 図3-4 拠点施設の連携イメージ(将来像)について フィールドで汗を流して活動する市民を直接支える施設や設備の整備についての言及がありません。特に市民の森におけるボランティアサポートの拠点は、トイレも更衣室も十分な倉庫も無いなど劣悪です。市の施設利用者の視点だけでなく、円海山緑地を保全する活動にかかわる市民の視点でも見直しをお願いします。</p>	<p>今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
39	<p>P32 ウ「エコ森プロジェクト」の推進について 横浜の生物多様性を保全していくためには、横浜に自然史博物館がないことが大きなネックになっています。箱ものと言う意味でなく、機能としての「自然史博物館」の設置を「つながりの森構想」の中心に据えることは、構想全体の実効性にも寄与する「シンボル事業」になり得ると考えます。 具体的に、金沢動物園は、学芸員資格を持った職員が多く、ののほな館のような市民が立ち寄りやすい施設をもっている利点を生かし、円海山緑地を中心とした自然史博物館の機能をここに集約していくことを強く提案します。</p>	<p>基本方針2 ウ「エコ森プロジェクト」の推進などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
40	<p>市民と専門家が交えて協議して、木・草・花・動物・昆虫・野鳥・魚類・コケ類・地層(露頭)・自然風景等で大事(貴重)にしたいものを決めてはどうですか。その際、危惧種などと表現しない方が良いでしょう。 仮称「大切にしたいつながりの森の草木やいきもの」</p>	<p>基本方針1 アB保全管理計画の策定を推進の取組において、指標種などの活用を行います。「つながりの森」全体としては、今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>

NO.	意見概要	回答
41	「5年後の瀬上の森の姿」として、たとえばこの場所を構成する生物群集は地域本来の生物群集を保持するのに必要な条件を今後5年をかけて整える等といった5年くらい先を目標にした施業計画を立案して作業に当たりたいと考えております。この直近計画立案に当たり、会以外の関係者(市民・学校・地権者・行政・専門家)の参加も仰ぎ、森そのものが自分たちの共有の財産であり、森が持っている多面的な機能(保水・保険・休養・生産等)を劣化させることなく、より良い森として次世代に引き渡せるような「森づくり」を継続して行う体制を「つながりの森」の構想案の中に盛り込んで頂きたいと提案いたします。	基本方針1 アB保全管理計画の策定を推進、イB市民の森指定と保全管理計画の推進などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
42	タイワンリスによる食害や蔓性植物の蔓延により樹木が枯れて倒れるケースも散見される。	基本方針1 カ外来生物の対策の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
43	エコツーリズムで人を呼び込むのもよいが、基本方針にも述べられているように「保全と活用のバランス」に留意し、「つながりの森」がオーバーユースに、つながるような過度の利便性の提供は極力避けていただきたい。	基本方針2 イ「つながりの森」エコツーリズムの推進の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
44	リーダーの養成で、ある程度専門的な知識と経験を持っている人の集団をつくるのも良いでしょう。	基本方針2 エ人材の育成の取組の中などでご意見を参考にさせていただきます。
45	「JCNよこはま」・「神奈川新聞」との連携・タイアップを試みてはどうか。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
46	場所を知るためにハイキング等を実施して、個々と全体のあるがままの自然環境(どんな自然環境かや自然生態系)を知る・親しむ機会をつくる必要だと考えます。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
47	市民の関心を高めるため、将来、仮称「つながりの森友達の会」・「つながりの森愛好会」等を組織してみてもどうか。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
48	「つながりの森憲章」を作ってみてはどうか。アピール出来ると思います。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
49	この地域には地層がわかる露頭が多くあり、この地域を地層(地学)の視点から再発見して欲しい。 地層の視点から植物や動物とのつながりを調べるのも面白いかもしれません。強く希望します。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
50	市民による自然を語る会(お気軽懇談会)を開催してみてもどうか。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
51	市民が対象ですので、全てがあまり学究的にならず遊び心が必要だと思います。それと持続性です。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
52	市以外の市町村への過剰なPR活動はしないでほしい。この地域は市民が守り、市民が楽しむ場所であって欲しい。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
53	盛り上げるためのお祭りのイベントはやらない方が良い。一過性で終わる恐れがあります。	基本方針2などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。

NO.	意見概要	回答
54	利便性の向上が、駐車場を作るための緑地の破壊と言う本末転倒にならないように、車の渋滞や駐車場待ちの発生や、過度な来園者によって自然への圧を発生させないような対策を事前にとることを求めます。	基本方針2などの取組中のご意見を参考にさせていただきます。
55	ロゴマークやキャラクターをつくってみてはどうですか。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
56	財政難のなか、このように構想倒れとなることは避け、市民ボランティアの協力を得て、数十年前まで存在した里山の風景を残したいものである。そのため、設置する施設はトイレなど必要最小限のものとし、柵なども必要とするところに廃材を利用して設置するなど出費を抑える必要がある。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
57	民間が積極的に環境ビジネスとして参入できるような仕組みを整えるべきである。具体的には間伐で発生した木材を粉碎し、木質ペレットとして販売、その収益の一部を森の保全やコリドーの整備に回すといった具合にである。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
58	なにもせずに放置したのであれば山が荒れてしまうため、地元町内会(連合)を含めた保全活動をすべきだと思います。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
59	「つながりの森」の構想の地域には横浜市立大学の本校舎が入っています。横浜市立大学の研究者、施設、学生を生かした取組を期待します。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
60	すべてにおいて何が目的なのか「直接的にその環境を保全すること」。そうすることによって市民の意識をかえて「世界的な環境の劣化を食い止めることにつながる」だと思っています。 上記のような私の解釈が「つながりの森構想」の本質的な目的とおおきく違わないとするならば、もっとダイナミックな施策でなければ、市民・国民の意識を変えることはできないと思います。 国連による「ミレニアム生態系評価」による現状と今後の50年も、生態系の喪失が加速するという評価です。 こういった国際的な評価もあらためて記載して、施策は危機感をもって取り組むべきです。 この「つながりの森構想」が世界を変える大きな原動力の一つになることを、心から希望します。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
61	高校～大学生の年齢層がすっぽり欠落していると見受けられることが気になります。 農業・園芸分野とのコラボが 今回の構想の基底にあるべきで、その場合、高校・大学・専門学校等における教育や実践を施策の中にきちんと位置づけ、次の世代へと豊かな 自然環境を伝えていく担い手のベースとすべきと思います。 横浜市内の高校や大学において、農業・園芸、自然環境分野の教育・研究を強化し、活用していくことを提案します。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。
62	案内看板の設置・建物等の施設をつくること、他の地域から持ち込んで木や草花を植えることはしないでほしい。	今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。

NO.	意見概要	回答
63	<p>円海山を中心としたエリアは、金沢自然公園、横浜自然観察の森、上郷・森の家の3施設を除けば、まだ多くの手の入らない自然が残されており、生き物の多様性を大切にしたり、自然を楽しむには絶好の場所となっている。そのためには今後「つながりの森」として過度の施設を作ることや、過度のフィールドの整備をすることは避けたい。</p> <p>ただし、樹林地や河川を整備するボランティアや自然を楽しむ人々のために必要な最低限の「トイレ」ボランティア団体用の「活動小屋」の設置をぜひお願いしたい。</p>	<p>今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
64	<p>本構想をまとめるにあたって、当会の意見を参考にしてほしい。</p>	<p>今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
65	<p>市民の森として保全されているエリアだけでは、守れないと思います。今後考えられるオーバーユースと、利用する方のマナーの悪さ(生き物を採取する)が、保全活動を上回りそうな気がします。</p> <p>そのため、現在の瀬上市民の森を「保全する為に人が手を加えることができるが、一般の方は原則、散策路以外立ち入ることができない保護区域(厳しく採取を禁止)」とし、瀬上沢の田畑、樹林地、草地を復元再生させ、その一部のエリアを「一般の方が自由に自然観察できる区域(自然に対する接し方、ルールを啓蒙する)」にしっかりと分けるといいと思います。</p> <p>将来、「つながりの森構想」が実現し広範囲にわたって生物多様性が豊かになった時、市民は自然に対して正しく接することができ、市民の森を自由に観察できるようになります。</p>	<p>今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
66	<p>「つながりの森」を具体的に推進していくためには、市民の森・水辺・公園の愛護会や森づくりボランティア活動団体に対する財政支援が必要である。特に、森づくりボランティア活動団体では、チェーンソーや刈払機、チルホール等の機器が必要となっているが、それらの機器を横浜市から貸与を受ける制度ではなく、団体が直接購入し責任をもってメンテナンスを行い管理していくことが必要と考えており、購入資金の支援をお願いしたい。</p>	<p>今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
67	<p>時々巡回するレンジャー(市の職員・委託された者)を作ってはどうか。監視の目をつくることは環境保全に役立つと思います。市の考え方が市民に伝わると思います。</p>	<p>すでに行っている場所もありますが、「つながりの森」としての実施について、今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
68	<p>案内人やボランティアを一般市民から募り、組織化してはどうか。</p>	<p>すでに行っているものもありますが、「つながりの森」としての実施について、今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
69	<p>自然観察会を開催する場合は定例的にすべきであり、定例的にすると人の輪が広がると思います。</p>	<p>すでに行っているものもありますが、「つながりの森」としての開催について、今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
70	<p>勉強会を開催してみてもいいですか。市民が「生物多様性」・「共生」・「食物連鎖」等の言葉を知る良い機会です。また、シンポジウムを開催して市民に関心を持ってもらう方法があります。</p>	<p>すでに行っているものもありますが、「つながりの森」としての開催について、今後の取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
71	<p>ハビタットやコアエリアをどのようにつなぐのか、具体策が読み取れない。現状の保全だけではなく、今後20～30年後の人口減少後の土地利用も含む構想とすべきだ。</p>	<p>本構想では、10年後程度までの取組、目標を掲げています。今後の取組の中で、参考にさせていただきます。</p>

NO.	意見概要	回答
72	この計画で円海山周辺を「つながりの森」として位置づけているようですが、この地域の何か所かは、がけ崩れなどで立入禁止になっています。六国峠ハイキングコースのスタートである谷津から不動池の辺りまでがいまだに通行止めです。森と親しむにしても、ハイキングコースの最初から、通行止めでは森と親しむどころではありません。早急に整備を進めるべきだと思います。また、金沢市民の森の清戸の広場の付近も何か所か通行止めになっています。通行止めで通れない場所があるというのは、問題だと思います。計画を作るのも結構ですが、まずきちんと森林を整備して、それから今回の計画にある目標を達成するため、市民の関心を高め、市民にも協力を求めていくべきではないでしょうか。	六国峠ハイキングコースの通行止めについては、自然災害のため通行止めになっていた不動池付近の箇所は平成24年7月6日に整備を終え、通行可能になっています。また、落石の危険のため通行止めとなっている谷津町付近の箇所については、開通にあたって安全対策が必要であり、引き続き安全対策実施に向けて検討を進めます。 また、清戸の広場付近の通行止めについては、高速横浜環状南線事業により通行止めとなっています。現在、事業者である東日本高速道路株式会社が付替えルートを検討しており、事業の進捗に合わせて整備していきます。

④構想に反映することが困難なもの

NO.	意見概要	回答
73	P3(3)構造の位置づけ・役割について 「生きものの多様性を大切にする」「自然を楽しむ」という二つの取組のうち、「自然を楽しむ」という表現は支持できません。 その理由は、下記の2点です。 (1)「生きものの多様性を大切にする」はこの構想の目的を表しているのに対して、「自然を楽しむ」というのは自然の仕組みを理解し、それを守る意識をはぐむための一つの手段あるいは結果にすぎません。構想の中心となるタイトルに、たくさんある手段の一つのみが生物多様性地域戦略の目的と並列するというのは構成的におかしくないでしょうか。 (2)円海山緑地に限らないと思いますが、環境保全活動で常に大きな課題となっているのは「生きものの多様性を大切にすること」と「自然を楽しむ」ことの相反です。希少種や在来種を含む多くの生きものが人による採集や捕獲の対象になり、外来種の持ち込みも発生している円海山緑地において、自然を楽しむことを強調することは、生物多様性にとってのネガティブな動きを助長させかねません。楽しむことは目的ではなく結果であり、その前にしっかりした環境保全措置や環境教育のしくみが必要です。同時並行では困ります。敢えて言えば「自然に親しむ」という言葉が望ましいと考えています。「親しむ」「学ぶ」「守る」という3つのステップがあるとされます。その入り口として「親しむ」ことで関心が芽生え、関心が学びを導き、学びを通して守る意識と活動が生まれてきます。いきなり「楽しむ」というのは、良好な環境をつくり出す前に自然を消費するイメージがあり、必要なステップを無視しているだけでなく環境保全のしくみ作りとのバランスを欠くものであり、「望ましくない表現」と言わざるを得ません。	「ヨコハマプラン」では、2025年の将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」と掲げています。ヨコハマプランの重点施策である、「つながりの森」構想においても、子どもたちを中心に、楽しみながら、学び、守る取組を進めたいと考えています。 一方で、ご指摘の通り、利用と保全のバランスをとることは重要な課題であることから、方針1でまず、「生きものの多様性を大切にすること」を掲げており、また、方針2の「自然を楽しむ」においても、具体的取組では、環境学習や人材育成など保全につながる取組に重点を置いた内容となっています。
74	P18(2)具体的な取組について 「つながりの森エコツーリズム」という言葉は、円海山の生物多様性保全の観点からきわめて誤解を与えやすいものであり、見直しを求めます。 国内外においてエコツーリズムという事業あるいは活動が広がっている一方で、その弊害として自然や生きものや地域の生活にとって、かえって圧が増加している例も報告されています。圧が比較的コントロールされているところでは、その場所に入れる人数や方法に厳しい条件を課している例すらあります。一方で、円海山緑地は、市の施設の一部を除けば、市民の森も含めて立ち入りや行動を制限する条件やそのための日常の管理の仕組みはありません。 多くの生きものが採集、捕獲され、外来種の広がりも無視できなくなっている円海山緑地の大部分においては、まずは保安全管理の仕組み、立ち入りや行動に関するルールやマナーの徹底が担保されるような施策が先行すべきです。保全措置が先行しない中で「エコツーリズム」という言葉を安易に掲げることは、円海山緑地の生物多様性にネガティブな影響を与える結果となりかねません。「自然体験プログラム」で何か不都合があるのでしょうか。	「つながりの森」エコツーリズムは、自然体験プログラムを実施するだけではなく、自然体験を通し、「つながりの森」の魅力を伝え、価値を理解してもらうことで、環境の保全につながる仕組みとして位置づけています。 また、取組においては、C自然環境の保全にあるように、利用と保全のバランスをとると同時に、利用についてのルール(マナー)について普及啓発を行います。
75	P15④横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)について つながりの森の構想を円滑に進める上でも、財政的な裏付けとなる横浜みどり税の継続が必要なはずですので、そのような仕組みの課題が読み取れる織り込み方を求めます。	今後の横浜みどり税のあり方については、別途検討しております。関係区局と共有します。

NO.	意見概要	回答
76	<p>P21イ瀬上池の生物多様性を守るについて この事業への取り組みは評価しています。ただ池の管理をどのような方法で、誰が行うかも併せて検討する必要があります。また残った課題は、池は市民の森に編入されて樹林地などと一体で整備、管理できるとして、池から流れ出すたち川支流の行政部局が別で、管理が分かれています。特に川と池と湿地相互の生きものの動線を考えると、政策や事業の整合とともに、池と川や湿地のつながりが可能な整備や維持管理を進めるべきことも記載ください。</p>	<p>基本方針1 イ瀬上池の生物多様性を守るの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
77	<p>P22 ウ水と緑をつくる・つなげるについて 種の供給源と身近な緑化の推進や水と緑の連続した環境づくりは評価できますが、円海山緑地周辺には、港南台や洋光台をはじめ、大規模に開発された団地が広がっており都市緑化において面積的にもそこに暮らす人々にとっても重要な拠点です。このページでは「公共施設や住宅の庭」とありますが、分譲団地の管理組合への啓発や協力依頼により植栽管理計画に緑地の拡大、保全、水辺の創出、外来種対策などの生物多様性の保全を考慮してもらおう政策を明記すべきと思います。既にクリハラリス(タイワンリス)による食害が港南台地区の団地の植栽樹木に影響を与えており、アライグマも見られる状態です。 また自治会や子ども会、あるいは地域のエコクラブなどによる環境保全と連携することが重要です。 一例として私の住む港南台せきれい団地では、敷地内の法面緑地に多くの希少種・在来種が残っており、管理組合の理解により保護活動を行っていますが、そのような活動への支援や顕彰などで管理組合や住民のモチベーションを上げることも実効性ある保全のためには必要だと考えます。 団地の管理組合や自治会との連携を明記ください。</p>	<p>基本方針1 ウ水と緑をつくる・つなげる、カ外来生物の対策などの取組の中でご意見を参考にさせていただきます。</p>
78	<p>P29(イ) 横浜自然観察の森について ①における「森を楽しむ」を「森に親しむ」に見直してください。私自身、観察の森で来園者をご案内するガイドツアーのボランティアで、楽しさを否定するものではありません。ただし、自然に親しみ、学び、守る気持ちをもってもらえるように努力はしていますが、楽しむことは一義的な目的ではありません。自然に親しみ、学び、守るプロセスを、結果として皆さんが楽しんでおられるのです。</p>	<p>「ヨコハマbプラン」では、2025年の将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」と掲げています。ヨコハマbプランの重点施策である、「つながりの森」構想においても、子どもたちを中心に、楽しみながら、学び、守る取組を進めたいと考えています。子どもたちの自然に触れ合う機会が減っている中、自然が楽しい、ということを体験してもらうことが、学び、守るプロセスにつながると考えます。</p>
79	<p>P30 イ「つながりの森」エコツーリズムの推進について まず、A. からC. への配列の仕方が決定的におかしいと考えます。 すなわち、ここに書かれた配列は、イベントをPRして、イベントを実施して、自然環境の保全が追いかけるという順番です。この構想が生物多様性地域戦略の中の事業であるとすれば優先度は当然変わるはずで、A. に本来の目的である「自然環境の保全」を置いて、そのような環境の整ったところからB. C. のイベントのPRや実施が行われるべきです。</p>	<p>AからCの各取組の実施については、短期、中期、長期に示すそれぞれの目標にそって進めるものであり、AからCの順に進めるものではありません。「つながりの森」エコツーリズムの説明としてわかりやすい順番としています。</p>
80	<p>P30 イ「つながりの森」エコツーリズムの推進について 子どもたちを主たるターゲットにするのであれば、「自然体験プログラム」で何か不都合があるのでしょうか。自然の中に入る圧を抑制するような管理の仕組み、引率や指導をする体制がまず用意されるべきであり、その範囲において受け入れるということが重要です。健全なエコツーリズムが成立しているフィールドは、立ち入る人数や行動に条件をつけて、保全に影響のない範囲で受け入れをしています。そのような抑制のきかない円海山緑地の樹林地や水辺には、まだエコツーリズムを成立させる条件がありません。</p>	<p>「つながりの森」エコツーリズムは、自然体験プログラムを実施するだけでなく、自然体験を通し、「つながりの森」の魅力を伝え、価値を理解してもらうことで、環境の保全につながる仕組みとして位置づけています。 ご意見のとおり、保全を重視して、取組を推進します。</p>
81	<p>P30 イ「つながりの森」エコツーリズムの推進について A. 情報収集・発信 「市民団体の活動に関する情報を、一元化して発信していきます」とありますが、誰が、どこで、発信していくのでしょうか。その情報はどのように集められるのでしょうか。現在でも、市の広報などへのイベントや活動の掲載では市の施設が行うものが優先されていて、市民の森などで一般の市民団体が行うイベントや活動の情報発信は行政も大きなメディアも関心が低く、それぞれの小さなネットワークに頼っています。このような情報発信力格差を是正するような「公正な情報発信」の姿勢がわかる表現をお願いします。</p>	<p>基本方針2 イA情報収集・発信の取組の中で、ご意見を参考にさせていただきます。</p>

NO.	意見概要	回答
82	P31アンケート結果について この分析の仕方を見ると、そもそもアンケートを行った趣旨、ここに記載する趣旨がよくわかりません。 「自然「観光」資源」とか「ツーリズム」とかという切り口での整理は「生物多様性の保全」という本構想の基本の目的とは違っているのではないのでしょうか。誤解を与えやすいエコツーリズムなどという言葉よりも、「自然体験プログラム」「自然（環境）学習プログラム」で何か不都合があるのでしょうか。また単なる「ハイキング」が環境学習だとは思えません。	「つながりの森」エコツーリズムは、「自然体験プログラム」「自然（環境）学習プログラム」を実施するだけでなく、自然体験を通し、「つながりの森」の魅力を伝え、価値を理解してもらうことで、環境の保全につなげる仕組みとして位置づけています。 ハイキングは、自然に親しむ活動として、選択肢の一つとしました。
83	生物について「生き物」でなく「生きもの」と表現すべきと考えますので、本構想の公開にあたっては表記に配慮いただきたくお願いします。	「つながりの森」構想においては、「生き物」で統一しました。
84	駐車場は設けず、現行の駐車可能な栄高校下の道路を活用する。（交通量も少なく一方通行なので問題なし）	関係法令を順守しながら、適切に対応させていただきます。なお、市民の森には原則的に駐車場を設けておりませんので、路上駐車は御遠慮いただき、公共交通機関をご利用ください。
⑤感想、質問		
NO.	意見概要	回答
85	第一に地元の市民に、これらの場所の良さ（自然環境や生態系）を知ってもらうことが大事です。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。
86	生物はある程度の広さがあるからこそ生きていけますし、人間にとってもありがたい効能を発揮してくれると考えます。そして、子どもたちから触れ合い続けられることで特性も身に沁み、楽しめることで、守り維持していけるのではないかと思います。楽しみながら、人間にとって自然が有意義な存在である事を伝えていただきたいと思いました。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。
87	生物多様性基本法に基づく、横浜市の戦略である「ヨコハマプラン」を軸としながらも、横浜市の環境政策に関わる都市計画などの基本計画と具体的な行動計画の推進、さらに学校及び生涯教育を、円海山を中心とした「つながりの森」というフィールドをもって展開するものであって、このかつてない構想に感銘をうけています。ぜひ、長期の見通しをもって、確実に進めていただきたいと思います。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。
88	「つながりの森」構想のコア地域である円海山を中心としたエリアは、尾根道を通じて鎌倉市や横須賀市の樹林地や谷戸に隣接しており、できればそれらの地域をも含めた「つながりの森」であってほしいと思う。特に尾根道を歩くハイカーには、市の境界線などまったく意識せず、ひとつの森として意識している。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。
89	子供は、日常の中で見たものを「正」として記憶してしまうと思います。「基本方針」の中にもあるように「生物多様性を保全し、子供たちにその大切さを伝えることは、今すぐに取り組まなくてはならない課題」であります。その中で万が一「瀬上沢」の開発が行われると子供だけではなく、すべての市民に自然を壊してまでの開発が「正」だと思われてしまいます。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。
90	どこにでもある、似たような公園然としたものを目指すのではなく、その特異性を主張し、逆に利用者を峻別するような「つながりの森」であってほしい。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。
91	生物の多様性が豊かな場所は、取りも直さず多少の危険性が存在する。生の自然に馴染めない市民は、安全で人工物の多い施設型公園が既に多く存在するので、そちらを利用するものとする。	「つながりの森」における目指すべき将来像の実現のために、取組を推進します。

NO.	意見概要	回答
92	<p>自然観察センターの改修について、問題点を指摘する。</p> <p>1) 観察の家の隣に以前は市民が自由に使用できた1階の小屋があったが、今は友の会専用になっている。</p> <p>2) 以前は観察の家の軒先にベンチがあったが今はない。夏を迎え市民が日光を避け、または雨宿りをする場所がない。</p> <p>3) トイレの便座に電気暖房がない。</p>	<p>ご意見を関係区局で共有させていただきます。</p>
93	<p>法外者(自然の形を許可無く人工的に変えてしまう者)を発見した時の連絡先はどうなっていますか。</p>	<p>各管理者へご連絡をお願いします。</p>
94	<p>瀬上市民の森についてボランティアの関わりに関して一定の方針を出すと思っている。今後の方針について伺いたい。</p>	<p>市民の森愛護会や新たに結成されたボランティア団体と協議しながら方針を定めていきます。</p>
95	<p>私は池子の森を守る会に出席いろいろな勉強をしてきました。どうして都会に残された大切な森を切り、米軍住宅を建設するのか気がしれない。林市長の構想するCO2の問題や生物多様性に違反することになりますね。</p>	<p>池子米軍家族住宅建設については、市として引き続き環境への配慮も含めて、国へ必要な要請を行っていきます。</p>